著軍勝

今後の世界はどうなる

神祕之日本社刊

特244
741

始

露光量違いの為重複撮影

特244
741

今後の世界はどうなる

酒井勝軍

神秘之日本

月刊雑誌

露光量違いの為重複撮影

特244
741

今後の世界はどうなる

酒井勝軍

神秘之日本

酒井勝軍

今後の世界はどうなるか

仰ぎて謹る神秘を、そして今後の世界よりの深く研究し之に対処せんとする人はまづ本誌の愛読者として来り参せられよ！

月刊雑誌

著者略歴

明治七年三月山形縣上山町に生れ、藩命に依り酒井家を嗣ぐ。
同地明新小學校卒業前耶蘇教に歸依せる廉により、同校より東根町小學校に轉じ卒業。
明治二十一年仙臺東北學院に入り同二十七年卒業。
明治三十年宗教研究の爲米國に赴き同三十六年歸國。
明治三十七・八年戰役に從軍。
勳六等單光旭日章　佛國勳五等　獨逸勳四等を賜ふ
明治三十九年機關雜誌「讃美之友」を創刊、後「シオン」と改題、大正四年迄續刊、專ら神祕日本の研究に沒頭
大正五年より十一年まで浦潮派遣軍に從ふ。
正七位勳五等双光旭日章を賜ふ。
昭和三年猶太問題研究の爲パレステナに赴く。
昭和七年國教宣明團及び日猶協會を創立。爾來神祕日本の研究――國教の宣明――と日・猶を中心とする世界問題の研究に沒頭。

はしがき

今後の世界はどうなる、そして日本の將來は？　これ全面的に行き詰れる現下の全日本人が等しく聽かんと欲する課題である。

本書は酒井先生が本年一月、『今後の世界はどうなる』と題して試みられた講演の筆記を補訂したものである。酒井先生は今日まで實に其の半生を世界問題の研究に捧げ、二十年前より『世界人類の將來』について重大なる豫言を發表し、爾來一貫せる主張を堅持していよ〳〵屈せざる篤學者、かくれたる斯界の權威である。『世界統一・神政復古』は卽ち其の結論であり、年來の主張である。この超絶なる問題を最も分り易く說述して、日本國民の覺醒を促されたものが本書である。

昭和講演

尙ほこの小冊子は本問題の總論とも云ふべきもので、順次各部に亘る詳說を

引き續き刊行する豫定である。更に詳しき研究・發表は機關雜誌『神祕之日本』に據つてゐる。

この小冊子によつて幾分でも世界の將來と、日本の使命について啓發される所があれば幸である。

昭和十二年二月

神祕之日本社編輯部

今後の世界はどうなる

酒井勝軍

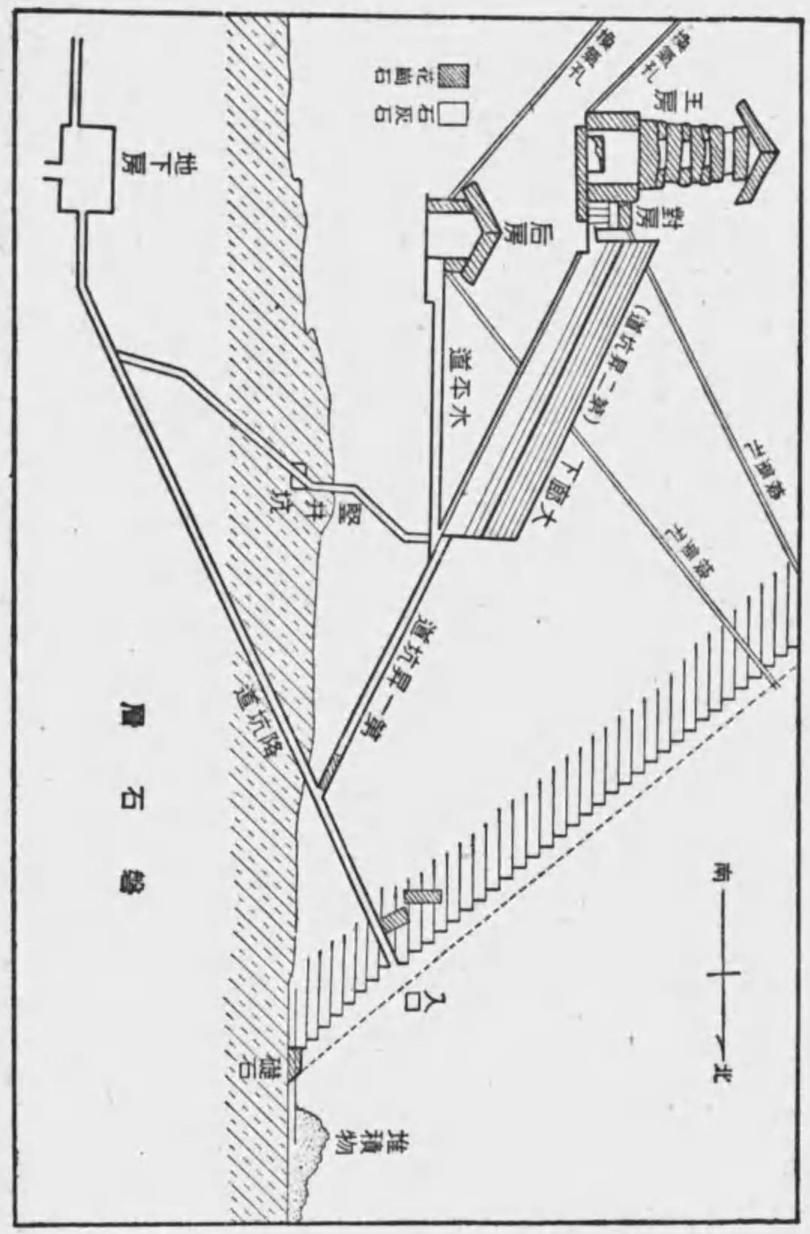
一　今後の世界はどうなる

主催者側の御希望に依りまして『今後の世界はどうなるか』と云ふ御尋ねに預りました。これに對して私がお答申上げますることは、「世界統一・神政復古」これであります。是で私の役目は濟みましたから此の儘歸りましても宜しいのであります。けれどもそれでは觀音樣の御神籤を貰つたやうな氣分でありまして、何んとなく物足りない。少し說明をして呉れないかと云ふ御註文があると思ふのであります。其處で時間の許す限り之に就て說明を加へます。

御覽の如く中外の世相がかくも異常を呈して參りましては、何人も嫌でも應でも何んとか之に對應すべき自分の立場を明にしなければならぬのですが、どう云ふものか斯う云ふことに關係しましては、世界の學者は殆ど無關心であります。時間は一時間半位はありませうから、其の間は

自分の之に關係して申上げる必要のあることは洩らさず申上げたい考へで居ります。然し到底一回、二回の講演では全部を盡す譯に行きませんから、今日は極く綱領だけをお話申上げます。どうしてさう云ふやうな世界の將來が手に取るやうにはつきり分るか。「世界統一・神政復古」は氣象臺の天氣豫報と似たやうなものぢやないかと云ふ疑があるかも知れませんが、私の申上げますことは、二十年先でも、三十年先でも若しそれが間違つて居りますれば私は世の中に生存して居りません。何時でも責任を以て自決致します。と言つて別に氣味の惡い行者が神がかりになつて御話を申上げるのでもなく、今日までの研究、即ち五十年間未だ曾て人間の歩いたことのない、人間の足跡の着いて居ない所ばかりを歩いて參りました。何の爲にそんなことをやつたか、我々の住む世界の將來と、我々の仰ぐ日本國體がどう云ふ關係を以て、どう云ふ發展を爲すべきものであるかと云ふことが分らぬならば、我々個人の存在も必要がなければ、我々五十年間の研究も亦必要がない譯であります。要するに我々は日本の國に生れました以上、天壤無窮の神勅と萬世一系の皇統と、それが此全世界にどう云ふ關係を及ぼして行くか。さう云ふ問題を研究しまする學問はまだ世界の何處にも、亦何處の大學にもありません。若し之に學名を付けますならば「大

勢學」と申しませうか、まだ學問になつて居りませんから之を學問とする譯に行きませんが、世界の大勢、世界の大勢がどう云ふ風に移つて居るか、如何なる方向に動いて居るかと云ふことが分れば此の問題は自から分つて來ます。極く簡單な卑近な例を云へば今は冬の眞中である。近き將來に春になる。然るに何人も之を疑はずに其の春の來るのを待つて居ります。如何に之を逆に動かして、冬から秋に戻さうとしても大勢は承知しません。其の人間業で出來ない大勢と云ふものに、若し我々が飛行機に乘るやうな工合に乘りましたならば、世界の動きが是から分る譯でありませう。我々の住む地球、是は獨立で生存することの出來ないものであります。太陽の恩惠を受けて、太陽と交渉なき限り、此の地球は即日滅亡しなければならぬ厄介な憐れな地位に居るものですが、太陽との關係が付いて居りさへすれば、太陽の存在する限り地球も自から存在する譯であります。太陽と地球との關係、是が分りますれば非常に面白い研究が進んで來ますが、此處に掲げましたのはエヂプトのピラミッドの略圖ですが、あれが地球と太陽の關係を現はしたものであります。後で自然に分るやうに御話申上げます。此の地球が太陽とどう云ふ關係に成立つて居るかと云ふことを詳しく申上げる時間がありませんから、地球と太陽と此の聯絡する線が地軸


第一坑道
第二坑道
第三坑道
第四坑道
第五坑道
第六坑道
第一坑道（第六坑道一部）
第二坑道
第三坑道
第四坑道
第五坑道
第六坑道
第一坑道

が日本の國と云ふのは亞細亞には屬しません。亦五大洲のどの洲にも屬さない、獨立した一つの國であります。それがはつきり分りませんと云ふと、世界の問題が自然に明かに我々が分らぬことになつて參ります。亞細亞聯盟、大亞細亞聯盟、色々亞細亞と云ふ名目を喰ッ付けて色々憂國者が集會を拵へて居るが、亞細亞の三字は日本には關係のない文字であります。日本は日の本、天地の公道に立つて居る。さう云ふ國であつて、さうして亞細亞の國は此の日本が發展して行つて段々擴つて行つた日本の國の分邦に過ぎません。元來亞細亞といふ名は分邦の義で、更に發達して四方津國——ヨーロッパとなる。今晩はそれは必要がないから略しますが、日本の國のみが地球の一角に不思議な存在をして居りまして、太陽と始終直接に交渉を結んで居ります。故に太陽の最初の光線が何處に射すかと云ふと、一番先に日本の國「朝日たゞ射す國、夕日照る國」日本には夜がない。朝は朝日が直射し、夕には夕日が映へて、夕日の映があれば翌日は天氣ですから明日も雨ぢやない、其處で日本の國を『日の國』と申します。日の國と云ふのは地球の中に日の國があるのぢやない。天の太陽が地球の一角に太陽の出張所を拵へて之を日の國として、それを我々が今日日本と云ふ國として御同樣の憧れる所の美しい國になつて居りますが、此の小さい

五大洲の何れにも屬さない吹けば飛ぶやうな國が異常に發展しまして、近き將來に日本の國が全世界を統一すると云ふ非常に面白い問題が太平洋を中心に始つて參りました。其處で私が先刻御答申上げた「世界統一・神政復古」それは何百年後の事ではなく、已に其第二年を迎へ、來るべき二千六百年に於て實現さるゝことであるから、今晩の主催者も非常に焦つて此の集會を開かれた次第であります。若し私の申上げましたことが三ケ年で出來ませんでしたならば、私は何處かの山に隱遁するか、或は自決します。嘘を言ふて世人を惑はして、私は何の必要あつて世の中に生きて居りますか。さうすると貴方は本當にさう云ふ風に考へて居られるかと申されませうが、考へるのぢやありません。世界の大勢がさうなつて居るから仕方がない。

三　大勢と流行

此の世界が此の大勢と云ふ太陽との直線を結んだ線で始終廻つて居ります。どんな風に廻つて居るか。ムツソリーニが出て來ましても、ヒツトラーが出て來ましても、地球を逆に東から西に廻はすわけには行かない。天地の公道は太陽と共に西から東に動いて、さうして一分時間に十六哩も走つて居ります。此の地球の動き方、太陽との線に依つて動く所の其の公道、之に從つて行

く國が榮へ、之に逆ふ國は必ず亡びる。所が今の所此の公道の中心に立つて居りますのが日本の外にありませんから、日本一國のみが將來に榮へを持つて居りますが、外の國は何時か必ず滅びなければならない運命に置かれてあります。いや已に亡び、亦亡びつゝあつて今日マダ殘つて居りますのは日本と米國だけであります。而して地球が西から東に向つて廻轉を爲す間に、今度は逆に風が地球の上に東から西に向つて吹いて居ります。是は自然の結果で、汽車が飛んで行くと反對に風が吹いて來る。汽車が行くから自然に其の風が出て來る。地球もさうである。天地の公道の廻轉に依りまして、西から東に地球が廻つて居る。其の勢これを大勢と言ひます。其の大勢に必ず反對して地球の上に逆に風が吹いて居ります。それは何んであるか、卽ち流行といふものである。而して大勢に乘つて居るものは悉く榮へますけれども、流行を遂ふものは必ず滅びる。是は個人と國家とを問はず、殊に流行を逐ふと云ふことは天地の大道に乘つて居らない所の、所謂是は上滑りして居る所のものである。或人が外國へ行つて此の流行を見て來まして、——露骨に申上げます。アメリカの內務省の役人なら何を言ふても構はぬが、日本の內務省の將來ある參事官がヨーロッパを廻つて來られまして、新聞記者を集めての土產話に今や世界の大勢は共和な

りといふた。實に恐るべきお土產を持つて來たものです。然らば日本の此の官吏が如何なる制裁を受けたかと云ふと、制裁どころか歡迎をされた。共和は世界の大勢なり、故に日本の國體も共和にせざるべからず。是は今から十二三年前ですから問題は無事に今日迄濟みましたが、私は其の當時內務省前の衞生試驗所の二階で講演がありました時に、其の共和說を叩き潰しました。共和は世界の大勢なりと言つたことは大勢を見て言つたことぢやありません。ヨーロッパ、アメリカの流行を見て來て、逆に吹く風を見て來たのであります。世界の大勢を知るのにヨーロッパに行く必要はありません。之れは日本に居つても分る。然らば流行と大勢の見分けの付かなかつた人が國體明徵を叫んだ所が何になりますか。是も並行して行くものならば差支ないが、大勢は西から東、流行は東から西と逆に行つて居る。其の流行と大勢とのぶつかりが今我々の目の前に見て居る國難ぢやありませんか。

四　テオクラシー（皇政）とデモクラシー（魔政）

其處で此の大勢、流行、是は學問の言葉で面白くないから一つ目の前の新聞に書かれるやうな文句で說明しますれば、此の流行と云ふのはデモクラシー（Democracy）で、此の大勢と云ふの

はテオクラシー（Theocracy）、此のデモクラシー、テオクラシー共にギリシヤ語であります。英語には之れに當嵌る文句がありませんから已むを得ずギリシヤ語を使つて居ります。テオクラシーと云ふのは神の政、神政又は皇政で、デモクラシーと云ふのは民衆の政、民政と言つて居ります。併し是は譯が間違つて居ります。本當は「民」ではない。英語でも悪魔のことをデモンといひますが、そのデモンの政治卽ち魔政であります。然るに現代人は此のデモンに籠絡されて夫を自己意識の如くに信じて居るほど墮落して居りますから、事毎に天軍と衝突するのであります。でありますから神と悪魔の政治が二つ重なり合つて始終善玉、悪玉が個人、國家、家庭、社會到る所に爭鬪して居ります。其の中に人間が何方に從ふかに依つて人間の運命が定まるのであります。併しどんなに學問して人間が偉くなりましても、大勢を動かす譯には行かない。又どんなに人間が强くなりましても流行を戻す譯にも行かない。兎に角人間の一生といふものは丁度船に乘て居るやうなものでありまして、大勢の脇に來れば大勢に乘せられ、流行の脇に來れば流行に乘せられる。そして人間が自分の力で人生を左右して居るのぢやありません。流行に流されるか、大勢に動かされて居るのか、個人として大勢に乘つて居る人は安心立命を得た所の人、或は悟を開いたと言つても宜しい。流行を逐ふて居る人は、死ぬ迄安心立命と云ふことは絶對にありません。さう云ふことが段々問題になつて來るのですが、餘り詳しいことに這入ると云ふと混線しますからテオクラシー、デモクラシーをもう少し此處で說明して置きます。是はギリシヤ語と先程御話申しました。ギリシヤ語と云ふと如何にも學者でないと分らぬやうに思はれますが、そんなにむづかしい言葉ぢやありません。ギリシヤ語と言ひますが、其のギリシヤ語の母語なるものが今迄ハツキリして居らなかつた。此のギリシヤ語は何處から來たか、今日の學者は誰も知りません。故にギリシヤ語は世界で一番早く開けた所の文明國の言葉であらうと云ふので、ギリシヤ文明と云ふ名前を付けた。之と同じく文明を支配して居る三つの言葉はギリシヤ文明、ヘブライ文明、印度文明、此の外にもアツシリヤ、メソポタミヤ、エヂプト等がありますが、是は今日の舞臺には關係しませんから申しませんが、文明を支配するものはギリシヤ語、ヘブライ語、印度語此の三つの中で、今迄西洋の學者は總ての文化はギリシヤ語を以て本源とすると言つてギリシヤ文明を賞揚しまして、東洋の文化は殆ど眼中に置いて居りませんでしたが、段々研究しました所が、ギリシヤ語はヘブライ語の弟であることが分つて來た。已むを得ず西洋文明が東洋文明に頭

を下げなければならないやうになつた。さうしてヘブライの方がギリシヤより兄さんであるからこの方が先に出來た言葉である。それでユダヤ人、キリスト教信者など此の方に關係した者は此の文明を以て支配せられて居つたものでありましたが、段々世界の文明が進んで來るに從つて學者の研究も進んで實はヘブライ語と、印度のサンスクリットと云ふものは同じ語源であると云ふことが分つて來たので、已むを得ず此處に聯絡を付けて了つたのであります。そして今迄嫌ふて居つた東洋文化と關係がある。尙ほ其の上に之を調べて見た所が、豈圖らむやサンスクリットの方が早かつた。今迄の十九世紀の終り頃迄世界に勝誇つて居つた歐米の文化が悉く凋落して、東洋文化の方が一陽來復の春を迎へた。それが最近日本研究が世界的に勃興したわけであります。此は語學の關係からでもありますが、然らば印度が一番先かと云ふと、之を總括して此處に新しい不思議なる文字が現はれて參りました。「モリツネ文字」是は世界の學者がまだ誰も手を着けて居りませんが、此のモリツネ文字はサンスクリット、ヘブライ、ギリシヤ語の母語であることが最近に發見されたのであります。それで日本の古文書の中にも「モリツネ」と云ふ言葉に對して「守恒」と云ふ當字が書いてありますけれども、此の當字は間違ひである。モリツネと云ふのは正しき發音ではありません。之を正しく發音すれば「モロチ文字」であります。モロチ文字とは何んであるかと云ふと、日本の神代語で「外國語」と云ふことである。日本以外の外國の言葉、其の外國の言葉が一方にサンスクリットとなり、一方にヘブライ、一方にギリシヤ語となつて世界の文化を今日迄支配して參りました。そして其の世界の大勢が段々々外に向つて進み、不思議な奇蹟的な事實が東にも西にも現はれて、二十世紀が始まります頃に西の方に於きましてはユダヤ人が祖國に復歸すると云ふ運動が始りました。東の方に於きましては日本の國が王政復古に由りまして、全世界に向つて國威を發揚しやうと云ふ、これも奇蹟的な不思議な事實を生み出した譯であります。日本と此のユダヤとの關係に付きまして、一々御話申上げませんでも後で自然にお分りになるやうになつて居りますが、世界の大勢は神樣の思召に依ればテオクラシーに向つて進んで居る。然るに惡魔が之に反對しまして、逆に地上の萬民をデモクラシーに向つて誘惑して居ります。さうして天魔兩軍の戰爭を演じやうと云ふのが惡魔と神樣の作戰であります。

五　天魔兩軍の大決戰

此の天魔兩軍の決戰がテオクラシーと、デモクラシーの決戰になつて居ることは前にも述べましたが、ギリシヤの語原が明白でないために字義もハツキリしなかつたものが日本語とすると、天皇政治と地魔政治の決戰となるから面白く分ります。而して此のモロチ文字は少し習へば直ぐ讀めますが面白い文字です。それに依るとどうですか、英字で書くから變になるが、日本の假名で書けばよろしいのです。テオクラシー、デモクラシー、「テ」と云ふことは「天」、「オ」は「王様」、「クラス」は「照覽する」「位する」と同じであります。反對にデモクラシーの「デ」は「ヂ」で、「ヂ」は「地」、「モ」は惡魔の「魔」です。英語でも惡魔をデマンと申して居ります。でありますから天の上に住み給ふ王様、天の王様、簡單なものでしやう。今迄は外國語と云ふと如何にも遙かに進んだ文明國の言葉に思ふたから、我々は口が開けなかつたが、秘密が分つて見れば馬鹿々々しいものです。日本語の方が遙かに進んで居る。天の上の王様の照覽し給ふ所のテオクラシー、地の惡魔が政を司る所のデモクラシー、テオクラシーが勝つか、デモクラシーが勝つかと云ふことが今の地球上の爭鬪であります。それに依りまして將來がはつきり分るのですが、私が一々申上げますするよりも寧ろ此處に掲げたビラミッドの說明を聽く方が面白いですが、此のデモクラシーと云ふ言葉は是はローマで出來た言葉ですが、テオクラシーと云ふのは是はユダヤで出來た言葉であつて、其の以前はありませんでした。ユダヤの軍人であり、歷史家である有名なフラビウス・ヨセフスがユダヤの亡國史を書かむとして書いては見たが、ユダヤの政治を何んと書くべきかと云ふので書くべき用字がなかつた。其の當時の外國の言葉で何處の國の言葉にも之に該當するものがありませんので、已むを得ずギリシヤ語のテオクラシーと言ふ言葉を借りたのであります。此のテオクラシーと云ふ文字が出來てからまだ千八百五十年にしかなりませんが、此のテオクラシーが豈圖らむや日本語であるとすれば、是からの世界に我が日本がどう云ふ役目を承らなければならぬか。而も此のデモクラシーとテオクラシーとの二つの反對に流れる潮流の間に挾まれて居る地上の萬國及萬民はドウなるでせうか。否他國の事よりも日本は一體ドウなるでせうか。

六　日本の使命・世界的鬪ケ原

然るに御覽の如く今日の日本人は、寧ろ世界の大勢のテオクラシーに向つて走つて居る人は極

めて少いのであります。國家主義とか、天皇主義とか、或は國體主義とか言ふて居る人でも、此處迄徹底した頭で進んで居るのではないのであります。唯反動的に右と左に分れてそれで滿足して走つて居る有樣ですが、此の右、左に分けるのは外國の話で、日本には本來右も左もないわけであります。何故なれば天地の公道に立つて、天皇中心に生死する者と、天皇中心から遠ざかつて公道を脱線するものとの二つしかないぢやございませんか。而して天皇中心は如何に其主義を勵行しましても、日本に於ては取締りの必要はないわけで、之と最右翼と同視するのは大間違であります。そして天皇中心から少しでも離れますれば其程度如何を問はず取締の必要があるわけであります。是程迄に世界の大勢と云ふものが流行と云ふものと闘つて、此の方は後三年間で世界の大勝利になるのでありますが、此の全部に亘る地上の異變をハルマゲドン又はアルマゲドンと申します。「ハル」、「アル」と云ふことは「原」で、詰り「マケドの原」、面白い言葉でしやう。世界の運命がテオクラシーに付くか、デモクラシーに付くかと云ふと、天下分目の闘ケ原を世界共通の言葉でハルマゲドンと申す事になります。日本だけで申しますれば德川が勝つか、豐臣が勝つかは闘ケ原で分る、國内では闘ケ原、世界的にはハルマゲドン、其の「ハル」が日本

の言葉の原、南九州では原のことを原（ハル）と言ひます。其のハルマゲドンは何處にあるかと云ふと、世界の中心パレスタイン、西亞細亞の一番端、アフリカとヨーロッパと亞細亞の三大洲とが交叉する所、東文明と西文明が接觸した所、ユダヤ教、クリスト教、マホメット教の三大宗教の發祥した所、世界の中心此處に旗を立てた國が必ず天下を統一する。それであるからヨーロッパ及びアメリカの政治家がハルマゲドンを中心に今日迄どの位苦心したか知れません。此のハルマゲドンといふ語は耶蘇教の聖書に書いてあるが、今日迄之を使ふべき機會がなかつた。時が來ませんから使ふ必要がなかつたのであります。愈々世界の大戰が起つてドイツのカイゼルが滅びむとする頃に、漸くアメリカのニューヨークの新聞で、どうも今度の世界の大戰はハルマゲドンではないか、世の終りではないか。ヨーロッパ、アジヤ、アメリカなどと言つて居る時ではない。世界が一つに潰されるが爲に、潰す方は何んでもなからうけれども、潰される方の身に取つては是は大問題であるからして、其の新聞に依つて今度の戰爭はハルマゲドンではないかと云ふことで、アメリカに大センセイションを起したが、私の小さい機關雜誌の「讃美の友」と云ふ雜誌の中に其の「モーニングポスト」紙より一月早く大正五年に私はハルマゲドンを叫びました。「神祕之日

本」二月號にも其の時のことを書きました。今度の戰爭はハルマゲドンらしい。ハルマゲドンは世の終りである。耶蘇教の牧師は世の終りが近くなつて來るから罪を悔ひて教會に這入れば助かる、救はれると云ふが、本當に救はれるかと質問すると、其處迄は保障が出來ませんが、兎に角是で脅して置いてさうして個人を救はうとしたが、今日耶蘇教が行詰つて御覽の如き狀態になつて來まして、ハルマゲドンで一番先に滅ぼされるのは何處かと云ふと、耶蘇教を標榜したあの醜いヨーロッパではなかつたでせうか。斯く申しますればヨーロッパはまだ潰れて居らぬ。ドイツを見よ、イタリーを見よ、冗談でしやう、戰地に行つて御覽なさい、戰鬪力のない者でもびくびく動いて居る者があります。そんな者は問題にする必要はありません。世界の舞臺に上つて是から活動をしやうと云ふ者は一體何者であるか。其處を見分けなければならぬ。戰爭が終りますれば其處へ收容隊が行きます。重傷で非常に苦んで居る。非常に苦んで居る者が居りましても收容隊は見向きもしません。非人道とでも言ひませうか。併し戰爭では役に立たぬ者を活して置いても仕樣がない、成るべく傷の輕い者を收容して治して又戰爭に送る。殘酷と言はうか、非人道と言ふか、併しそれが本當である。それが日本の國の强い所であるからして、今目の前に現はれて

居る世界萬國を見て、役に立たぬ國に同情して見た所が、何の役に立ちますか。然らばどの國が是からの舞臺に立ちますか、其處は世界の大勢の上に立つて見ると能く分るが。

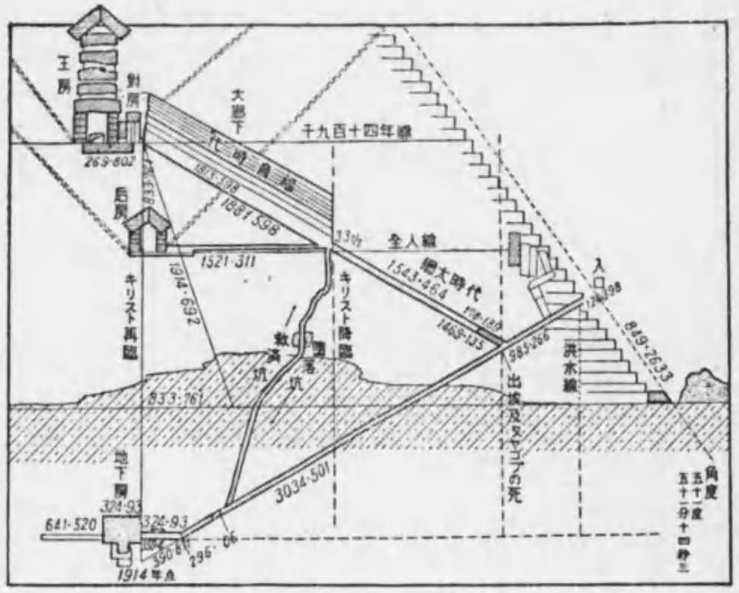
七　西にアメリカ、東に日本

西にアメリカあり、東に日本あり、傷の付かないまだ滿足に國の境を立たして居る國は東に日本あり、西にアメリカあるのみであります。他の諸國は悉く國境といふものに何の實力もなき狀態になつて居るので、ヨーロッパ諸國を始め有ゆる國は悉く是はもう過去の國家になりました。それは問題にする必要はない、此の眞中に又不思議なものが存在して居る。それは「猶太」である。是は國民でありませんから國が滅びても滅びません厄介な民族です。國家としてはアメリカと日本と此の二つのものが殘つただけですが、民族としては猶太人が此處に頑張つて居る。世界の中に立つて色々の重要な芝居をして居ります。ヨーロッパを滅ぼしたユダヤ人が今はアメリカと提携して全世界を統一する運動をマダ續けて居ります。實際日本と猶太が提携すれば世界統一神政復古は容易に出來ますので、惡魔は成るべく日本と猶太とが手を握らぬやうな運動をやつて居ります。猶太人と日本とが手を握られて困るのはアメリカであります。故に日本と猶太人と手

を握らぬやうに巧妙に猶太禍といふものを歐羅巴經由で日本に輸入しました。然るに世界の大勢を辨へず、猶太問題を解せざる人々が此猶太禍を叫ぶ大陰謀の手先になつて、今日まで猶太人を毒罵して參りましたが何といふ不思議ですか。而して猶太禍を叫べば日本の國の損害は日に日に加つて行くが、アメリカの利益は刻々に加つて來る。然らば机上の空論を排し、今此ピラミッドが示す略圖に由つて猶太人は果して日本の敵か、味方かを定めませう。

八　四千年の謎こゝに解く

此のピラミッドは今を去る約四千百年ばかり前にテオクラシー、世界の大勢と云ふものを將來に豫言する爲に設計した建造物であります。其の當時文字がございませんから、此の建物の中に何處にも文字は書いてありません。然らば何を以て世界の大勢を豫め示してあるかと云ふと、あすこに御覽の如く孔道であります。此の孔道の寸法に依つて世界の將來が詳しく分るやうになつて居ります。之を造りましたのが一體何者であるか、今日で申しますと猶太人、其の當時ではセム族と申します。セム族が神樣の思召に依りて、今日の文化の程度では到底建造することの出來ない絶對不可能とも言ふべき驚くべき神祕の建物を拵へました。今の人間は動もすれば、現代人



は文明の極度に達したやうに言ふて居りますが、我々世界の大勢に立つて居る者から言ふと今日の人間程墮落した人間はありません。此位墮落したならば幾ら神樣でももう遠慮會釋も要らず、篩に掛けて振ふが如く世界を振はなければならぬ時が來ませう。それがハルマゲドン。さう云ふ運命がどうして分るか、それがピラミッドの中にちやんと仕組れてある。其處で面白いのです。此のピラミッドが建てられましたのが一體何時頃であるか、今迄は歴史に書いてありませんでしたから誰にも分りませんでした。學者が參りまして此のピラミッドの測量をします。研究をします時

に用ひます所の尺度が何んであるかと云ふと、大抵皆メートルであります。どう云ふものか現代學者は流行を逐ひます。メートルを使つた國家は悉く滅びます。外國の學者は使ふことは勝手です。何の必要があつて日本の國が此のメートルを法律化しましたか、是は帝大の罪と云ふよりも寧ろ陸軍の罪、陸軍が一番先にメートルを使つた。メートルを使ふ國は悉く滅ぶと決つて居るから是は考へものでしやう。故にメートルを使つて此の建物が出來たならば別ですが、此の建物はメートルではどうしても研究は出來ませんでした。何故ならばメートルは既に御承知ですから詳しいことは申上げませんが、天地の公道と聯絡して居る此の地軸、地軸に依つた尺度ならば天地の公道に則した尺度であるから是は確なものでありませうが、野心滿々たるナポレオンが全ヨーロッパを擧げてフランス帝國を夢見て居た時に、先づ文化の發祥であるべき尺度を制定して、ナポレオン文化を全ヨーロッパに强制しやうとしてメートル法を拵へた。何處から斯んなものを持つて來たか、北極から赤道までの距離の一千萬分の一、それをメートルとしてナポレオンが全ヨーロッパに强制執行した。所が此の地球の測量は其の當時正確なものではなかたのです。それが間違つて居りまするから、全然間違つたメートル法がヨーロッパに今日迄行はれて居る。それが何時の間にか日本に來て法律になつて了つた。根據極めて薄弱、而かも曲線ぢやありませんか、物指が曲つて居つては迚も正しき尺度を圖る譯には行きません。今日本の國にある所の尺度は何んであるか、斯んな尺度は用ひません。然らば何を用ひるか、神社に行つて神主さんに御尋ねすれば直ぐ分る。今日も神主さんが二三人御見へでありますからですが、神職の持つて居られる笏(實は尺)、此の天地の公道に則した此の直線、北極又は南極から地球の中心迄の距離の一千萬分の一が神主さんの笏の長さである。それが日本文化の根源であつた。商人がどんなに伸ばしても短くしてもそれは僞造です。僞造をどうして見分けることが出來るか、昔の政治は皆祭政一致で神社で行はれますから、神主さんの笏を基本として何れが正しいかと質せば分るのであります。長い方も間違ひ、短い方も間違ひ、それが明治天皇の仰せられた萬機公論に決すべしの大聖心であります。

九　公論の正しき意義

天地の公道に立つて居る人間が口を開けば公論となるのでありますが、今日のデモクラシー政治家は原則として此の公道には立つて居らぬ、同時に其の言論は邪說である、私論である。彼等

は明治天皇の公論と、ワシントンのパブリツク・オピニオン（是は民衆論と譯す）と同視して居る亂視錯覺である。言ふまでもなくワシントンのパブリツク・オピニオンといふのは、ワシントン一個の意見を行ふに非ず、米國國民の總意を以て國政を行ふと云ふ事で、此の薄つぺらな用語と、明治天皇の萬機公論とを一緒に取扱つたのが今の政黨政治家である。斯うなつて來ると世の中が頭が猿で、尾が蛇で、足が牛で、得態の分らぬ動物の世界にならなければならぬ。それが今日の日本の現狀ではないか。實際何が何んだか分らぬ、それをはつきりさせるためのハルマゲドンである。世の終りの神の裁きが勝つか、惡魔の策が勝つか、而も之は日本だけでない、全世界に亘つての大戰爭が始つて居る。所が猶太人の尺度はメートルではなくキユビツトである。キユビツトと云ふのは人間の肘から手の中指の第二關節までの長さで、日本の神主さんの笏と一致して居るのであります。併し神職の方でも此の手の長い方もあれば、短い方もある、一樣ではありませんが、人に依つて違つたらどうなりますか、そこで人間同志の間の尺を用ひてはならぬ。私の論は已めやう。政友會であらうと民政黨であらうと、天地の公道から見れば皆私論、然らば此の問題は何處に持つて行くか。宇佐八幡の御神託で和氣清麻呂が道鏡の私論を破つて、日本の國は泰

きを得ました。天地の公論に依つて萬機を決せられる。明治天皇の公論と言ふのは是は神の政であると申上げて宜しい、神託と言つても宜しい。むづかしい問題があればお宮へ行つて祝詞を上げて、祓をして清淨潔白で神託を仰ぐ、其の時に人間以上の考が其の人に必ず現はれて來る。日本の神社の造り方が皆其のために出來て居る。天と地を結び付ける天地の公道を此處に成立たしめるのが神社の構造でありました。さう云ふ不思議なる日本の國が此の目の前に獨り亞細亞の此の東半球に殘されて、一體何の爲に斯の如き存在をして居るのか、見た所殆ど國民擧つて流行を逐つてデモクラシーに耽溺して居るではありませんか。內務省の役人が公々然と共和は世界の大勢なりと言つても、誰も制裁する者がなかつたぢやありませんか。今此處に來ます時にも東京都制の運動をやつて居る、さうして立看板に都長公選と書いてあつた。何んです此公と云ふのは、明治天皇の「公論」の「公」ならば宜しい。然るにワシントンのパブリツクぢやありませんか。斯くまで世界の運命が切迫して居るに拘はらず、家を外に飛び出した婦人達が、歐米ですら愛想をつかされた流行後れの婦人參政權などを狂號して大切な時間を費して居るが、是はトラツクを二廻りも遲れて走つて居る人と同じことで、何んと言ふ情ない有樣ですか。其處で私は普選案が

日本の議會に上程された時、二・二六事件の如きを未發に防がむが爲に、或る將軍一人が腹を切る覺悟で議會にクーデターを執行して頂きたい、さうして大難を未發に防がうぢやありませんかと提言した。彼の曰く軍人は政治に干與出來ません。然らば本當に出來ないかと思つたら、某大將の手先になつて五萬圓事件といふものに關係して居る。若し彼が自己一人を犧牲にして英斷して呉れたら今日の覺醒は十年早く出來た筈であつた。自分のことを言ふても濟みませんが、私の言ふことがどの位責任がある。又世の中の世相と合致して居るかに付て極く二つ三つ簡單に御話ししなければならぬことになつて參りました。

一〇 私の豫言

西にアメリカあり、東に日本あり、眞中に猶太民族が殘ると云ふことは今から三十年前にもう分つて居ります。分つて居りまするから廿五年ばかり前から私は日本全國に約八百回に亘り「皇國の運命を呪ふ二重陰謀」と題する講演を致しました。其の當時お聽きになつて居る方もありませうが、何十萬の識者階級に之を警告いたしました。其の時今此處に居られる角地さんが共鳴せられて私の講演を全部筆記して、非常な費用を投げられて之をばら撒れたこともあります。アメリカと猶太が二つ重つて全世界の征略運動をやつて居る。日本の將來に對しては是は由々敷き大問題であると云ふことを到る處に警告しましたが、殆んど反響がありません、餘り早過ぎた。それならば私の言ふたことが嘘になつたかと云ふと、今日になつて初めて分つて來た。何故それに對して二十年前に準備をしなかつたのですか。其處で此の猶太民族と云ふものと、アメリカと云ふものは永久に日本の敵かと申しますれば、アメリカはメートルを使つて居りますが、猶太人はキユビツトを使つて居りますから物指は合はない。アメリカはデモクラシーの本場で、猶太人はテオクラシーの本山であるから之も合はない。アメリカは世界の上滑りの人間を煉瓦の如く集めて、さうしてヂヤズを以て騷ぎ立てゝ、其處に星の旗を立てれば世界征略運動が出來たと考へて居りますけれども、國體が何であるかと云ふことは問題でない。然るに日本の國はぼんやりして世界問題なんか何處にあるかと言つたやうな調子で、日本の政治家は殆ど無關心で居るが、實はそれで宜いのです。日本に若し豪傑が出て來て、ヒツトラー、ムツソリーニのやうな者が出て來て政治を搔き廻はされては困る。日本の國は人民の力に依つて出來た國ではない。國民がどんなに左に走らうと、或は大衆が右の方に曲らうと、日本の國體に微塵の動きもありません。其處で

日本人悉く天孫民族の精神を喪つても、日本と云ふ國は萬世一系、天壤無窮に永久に榮えるのであります。有難い國ぢやありませんか。其の日本の國と一緒に進まうと云ふ所の誠を持つた人間が日本の國旗を翻へして居りますれば、其の國民のみが將來ピラミッドの眞中にある不思議なる國に這入ることになつて居る。メートルはピラミッドの測量には外道尺でありますから通用しません。メートルで測つた測量は全然無意義でありました。

一一　ピラミッドの豫示する世界人類の運命

其處で英國の學者等が自分の國の尺度を持つて行つた。猶太人のキュビットは腕だが、英國人の尺度フートは足で測る。何れにしても其の長さは殆どまあ同じと言つても宜しい。極く僅な差であるが、其の呎を以て英國の學者が測つて見ました。見た所はピラミッドは三角ですが、底は四角になつて居る。此の一邊を測つて見た。さうすると三百六十五呎前後出て來ました。三百六十五と云ふ數字は一年の日數に近い數字であるが、それならば一つ何か此處に不思議が祕んで居るのぢやないかと云ふので、此のピラミッドを拵へた當時の尺度、即ちキュビットを以て測つて見た所が、何んと云ふ數字が出て來たかと云ふと、三百六十五キュビット四分の一、一年の日數が此處に出て來ました。四千年前に太陽曆があつたか、そんなことは嘘だらう。今の人間は人類史上一番偉いと思つて居るから總て間違ひを起しますが、今の人間、今の文明が此のピラミッドを拵へることが出來ないとすれば、之に對して口を出すべき資格がなく、默つて聽かなければならぬ。而かも此のピラミッドは東西南北に正しく向いて居ります。其の頃磁石があつたか。然るに事實東西南北にちやんと向いて居る。太陽曆は四年毎に一遍閏が來ますが、三百六十五・四分一は丁度太陽曆と合致して來た。是は唯事でない。それから段々內部の研究を思ひ立つた所が、此處に北の方に孔道の入口があります。之を降りて行けば何處に行くか、行詰りの穴藏之を地獄と言ひます。地獄に這入るのは降り坂で甚だ樂ですが、這入つて見ると永久の滅び、是がアダム・イブを以て出來た所の世界の今の萬國史に運命附けられたもので、日本は之に這入つて居りませんから御安心下さい。アダム・イブを以て始つた萬國史の始り、世界の萬民が此の角度、五十一度卅五分の角度を以て向上しなければならぬ神樣の御命令を受けて居つた。人間は總て向上して神に復歸するのである。然るに惡魔のデモクラシーの方面から流れて來た所の學說に、所謂人間は猿の進化なりといふのが飛び出して來た。何方が正しいですか、人は猿の進化であるならば元に戻

れば猿になるが、神様が墮落して人間になつたものならば元に戻ると神になる。而して此の五十一度三十五分の角度を以て神に向上した世界、然るにそれが此處に孔道がありまして、二十六度十八分九秒の角度で墮落しなければならぬやうになつて來た。二十六度十八分九秒誠に樂な勾配であります。人間の墮落する所の氣分は、人の話を聞くと大變氣持が好いさうです。私はして見なかつたから知らぬが、固より最後は首くゝりだ。それを神様が總ての人間を此の地獄に行けと云ふのぢやない、同じ角度で天に上るべき道が出來た。それで上る方が三分の一で、三分の一が此方へ落ちて行く。落ちて行つた者は此の邊で段々氣味が惡くなつて來る、迚も恐しい。案内者は皆アラビヤ人、皆馬賊ですな、巧く行けば泥棒にならうと云ふ、懐には出刄庖丁を持つて居ります。それで何人行つても一人に一人案内人が喰付く、一緒に從つて行く。懐には出刄を持つて居るし、言ふことを聽かなければ之を拔くぞ。初めから殺すとは言ひませんが、おい余り暗いから懐中電燈を點けやうぢやないかと言ふと、懐中電燈を點けてはいけない、暗つて點けるならば俺が點ける。で自分の持つて居るマグネシュームに火を點ける、三四間歩くと消して了ふ。何んで消すか。もう五十錢呉れといふわけで、地獄に行く迄に三十圓も取られる。此處へ來ればどんな英雄でも豪傑でも頭が上らぬ。そら五十錢、そら五十錢と云ふのでもう丸裸にされて了ふ。さう云ふ恐しい所へ引張つて行く。餘り氣味が惡いから途中で此處から引返さうとした。ふと後を見た所が面白いものを見付けた。入口にぴかつと光るものが出て來た、たしかに星だ。何星か能く調べると北極星、北極星がちやんと見へるやうに拵へてある。拵へた當時は眞中に見られたものだらうが、今は餘程ずれて居ります。其のずれ方は間違つてずれたのか、地震でずれたのか、學者の研究が段々進んで二萬六千年で廻ると云ふ歳差説が出て來た。それで調べた所が此の星の動き方が四千百年動いて居る。それで此のピラミッドを拵へたのは、今から四千百年前だらうと云ふ學説が立つて來た譯であります。而して此の星を見たときの心持は地獄で佛とでもいふやうな氣持がした。併し懐しき星よ、美しき星よと云ふ三文文士が言ふ此の頃の詩の如きものは多分此の地獄道に來て居る人々であるらしい。地獄からだから此星が見へるが、此方へ行つたら星は見へなくなる。墮落して居る人間には星が見へる。アメリカの星が自由、平和、平等、民權、憧れの星條旗と言つて私がアメリカへ行つたのは日清戰爭直後でしたが、日本の耶蘇教の傳道師が訪ねて來て、「貴方は日章旗を持つて來たのか」、「日章旗持たずにどうして外國が歩けるか」、「國

旗としては星の旗が一番だ、私は星の旗を部屋に飾つてある」といふ問答をしたが、それが日本人の耶蘇教の牧師だ。どうして星の旗がそんなに美しく見へるか、墮落して居る人には此の星が美しく見へるわけである。デモクラシー政治を謳歌する所の現代の政黨政治は悉く之に入つて居る。何んと言つても駄目です。さうでなしに若し之に反對なる所のものを探らうと言ふならば、登り道に來なければならぬ。其の登り道は一體何處にあるか、此處(圖を指しながら)で分れて居ります。是はノアの洪水、世界の人間の墮落を示して居ります。是はキュビットで測れば分る。そして萬國史に一致して居る數字が出て居る。さうしてノアがあの箱船に乘りまして新しい世界を造つてから大部分墮落の道を辿つて居るが、神様が此處でイズレル民族をお立てになつた。是は今のイスライル民族と云ふ猶太人の一族でありまして、神様が世界經綸のために秘密の役目を此の民族だけに與へると云ふ考へから、此のイズレル民族だけに一つの使命を賜はつた。だから彼等は自分達を「神の選民」と申して居ります。神に選ばれた民。此の印は何んである

かと云ふと、是が神の選民のマーク。神選民族といふ尊い使命に對するものが今の猶太人の徽章にもなつて居ります。

一二　日本と猶太との關係

然るに日本の神社の釘隱の印が必ず是でありまして、「かごめ紋」と申します。猶太ではマアゲンダビツトと申しまして、猶太の國章にして居ります。そして選民の徽章は是だと言つて居る。所が日本の神社には悉く是がある。是がないのは本當の神社の形をして居るとは申されません。釘隱といへば一寸裝飾に思はれますが、實は柱と貫とが動かないやうに押へて置く大切な役目をなすもので、それが天孫民族の役目ではありませんか。即ち天孫民族は日本の國體を擁護する爲にあるのではありませんか。それが偶然にも日本の陸軍正裝の帽子の頂上に附いたことがありますが、度々改正されましたから今は分りませんが、日本の國體を生命を捧げて忠實に擁護して居るのは、何といふても第一に軍人であることを何人も否定は出來ません。而して此の徽章に由りまして日本と猶太とがどう云ふ關係を有つて居るか、之に依つてピラミッドが自然的に我々に教へて呉れます。此處で(圖示)此の神祕な猶太の國が出來た。全世界萬民を悉く滅してはならぬ。

或る者は上に救ひ上げなければならぬ。此のピラミッドに日本は直接に關係しないことは先にも申しました。何故關係しないか、是は神社で申しますれば此ピラミッドは外宮であります。日本は內宮ですから勿論之には關係しません、それを御承知下さい。而して此の坂を上つて此處で猶太國が建設される。此處にイスライルと云ふ國が出來ました。此のイスライルと云ふのも實はイズレルで「五十連音の意義」、神の言の葉の民族の國、日本は神の言の葉の國。さうして猶太は千五百四十三年の間榮へましたが、時が來て是が滅ぼされた。曩に言ふたテオクラシーと云ふ文字を作つた歷史家であるヨセフスが、丁度石田三成のやうな存在を示したために、其の結果猶太はローマに滅ぼされました。それが滅びると同時に何が出來たか、今度は耶蘇敎が出來た。舊約聖書猶太時代は此處で始つて耶蘇キリストで終つて居る。後どの位續くか、千九百十四年迄續くと書いてある。此處でキリストが生れた證據があるが、時間が豫定を過ぎますから略します。さうして耶蘇敎國が隆々と榮へて、ヨーロッパが全世界を席捲して今日に至つたが、猶太敎時代の此の孔道の高さは僅に七尺位しかありませんために、氣持が惡いやうな低い天井でありますが、それが一度耶蘇敎時代へ來ると道が三つに分れて來た。一つは此處に落し穴がある。今迄向上して來たのだが最早登るに堪へずして、もう後は上れませんと言つて悲觀するか、或は絕望するか、此處に身を投げて地獄に落ちて行く者のためにある。併し此の地獄に落るのがいやだと言つて、少し樂な水平道に向つて這つて來る者があり、又更にある向上しやうと發奮するものもあるが、此の上の坂に向ふたものは耶蘇敎の中でも極く一部分しかない。斯くて世界の萬民は三方に分れて自己の運命を決したのである。而して猶太敎時代の低い天井が耶蘇敎時代にはいると高さ七間位ありまして、どんなに首を伸ばしても頭が着かない。其處でヨーロッパ人が自由平等民權を唱へて今日迄勝誇つたけれども、それが西曆千九百十四年になつた時に急角度で此の道が水平の方向に變りました。自動車に乘つて居りましても、外を見ずに右に曲つたか、左に曲つたか分る筈です。で此の急角度の方向轉換が分つた人は識者ですが、はておかしいなと思つた時が世界の行詰り。一體それは何時の話か、ハルマゲドンの始り、今迄の世界は向上の世界であつた。學問も要るし、修養も要るし、宗敎も要るし、二十六度十八分九秒の坂を上るだけの苦行に依つて我々は此處に上げられて來た。急角度に水平の道に代つた時に一切の物の行詰り、從來の制度は凡て用をなさぬことになつた。そして一體どうなるのですか、自分が偉いと云ふやうな頭では到底此

處に這入れません。どんな者でも悉く四つんばいになつて、動物と同じやうに這はなければならぬ。圖が細かくなり一寸分り難くなりましたから此の孔道を別に此方に書きます。(圖示)是が今迄上つて來た道です。千九百十四年、今を去ること二十三年前に全世界、全世界と申しましても是は日本以外の萬邦の話、其の萬邦が千九百十四年を期して今迄高さ七間もあつた樂な自由な天地からして、今度は僅か高さ四呎の斯んな穴藏に這入らなければならぬやうになつて來た。此處に一つ石段があります。此の石段を一つ上つた時が千九百十四五年になります。然らば何が始つたか、世界大戰爭の始りぢやありませんか。今迄東洋を脅した所のヨーロッパ諸國が皆ぎり〳〵ところてんを押出すやうに絞り出されて皆潰され、ヨーロッパの形此處に全く滅びまして全滅ですね、それがどの位長い間かと云ふと五十二ケ月、五十二吋、一吋が一ケ月ですから五十二ケ月の間ヨーロッパの諸國を此處に入れて、さうしてソセージを拵へるやうに後から絞られる。滅茶苦茶にやられて國と云ふやうな形は此處になくなつて了つた。それでも潰されずに殘つた者が此處に這入つた。それは一千九百十八年、三年半續きました。千九百十四年からですから。此の間に跋つて頑張つて居つたのがドイツのカイゼルではありませんか。「默示錄十三章前半に詳しくあります」之に滅ぼされるものはすつかり書いてある。此の十三章全部がハルマゲドンである。此の戰爭が卽ちハルマゲドンが、前半期の戰爭と、後半期の戰爭と二つに分れて居ります。それで十三章の眞中に丸がある。それを境にして前の方の戰爭、後の方の戰爭、ドイツのカイゼルが初めに勝ちましたが、世界を攪亂して潰すべきものは皆潰してくれました。それが千九百十八年に休戰となり、漸く息がつけるやうな世界に變りました。經濟狀態もちよつと一時安定を見せて少し其處で安心した。一體此の世界に平和を齎したのは誰のお蔭かとアメリカのウイルソンが言ひ出して、十一月十一日を忘れてはなりませんと言つて全世界に國際紀念日を拵へた。然らば平和が來たかと云ふと假想の平和です。是が永久に續くならばアメリカは有難いが、是が百十六ケ月しか續かない約十年であります。そこで穴藏の中の是が分つて居りますと、何にアメリカが馬鹿を言ふか、我々はもう一遍第二に來る所の穴藏に這入らなければならぬ。其の時の準備の爲に軍備は擴張しなければならぬと準備したのでした。然るにアメリカの曰く、今は平和であるから軍備を縮少しやうぢやありませんかと誤魔化して、軍備縮少會議を開いて何をしたか。日本の陸軍は半減されました。海軍も五・五・三の比率に押付けられました。所が日本の運命はアメリカの

籠絡の儘に滅びる國ではないので、此處に又新しい轉換が現はれて、日本の海軍か、或は陸軍が目を覺して軈て來るべき第二の國難に對する準備を爲された。是が今から九年前の千九百二十八年。第二の國難、是は日本だけではなく全世界の行詰りが此の年から始つた。能く御覽下さい。實業家も、宗教家も、教育家も、貴方々の日記を繰返して行けば之に合つて行く。而して世界はもう一遍此の穴藏を這はなければならぬ。此處で折角生き殘つたものも又此處でやられる。今度は長いのです。前の倍で約百ケ月、約八年間が世界最後の戰爭と云ふので、此の間に大勢に順應するテオクラシーの國と、流行を逐ふ所のデモクラシーの國が、天魔兩軍の決戰が此處で行はれる。其の時デモクラシーを代表するのが星の旗、テオクラシーを代表するのが太陽の旗、太陽と星との戰爭、晝と夜との戰爭、明い政治と暗い政治の衝突が始つて居る。だから日本人でもデモクラシーを叫ぶ者は日本國民でありながら滅ぼされますが、外國人でもテオクラシーを唱へる者は日本人になつて居るから救はれます。斯くて白兵戰が隨處で行はれて何方が勝つかの問題ですが、默示錄を見ると此處でちやんと書いてある。六百六十六と書いてあるが、それが何國か分ることになつて居る。聖書を讀む人が見れば直ぐ分る。斯う云ふ風に讀んで行くと、是が皆ピラミ

ツドに合つて來るので、是さへ寸法を測つて見れば世界の動向がちやんと分る。所が今後世界は何百萬年續くか、そんな遠方のことを今晩申上げる必要はありません。今目の前に迫つて此の第二の行詰り、是がどの位續くのだらうか。百ケ月、百ケ月と申しますと八年間。千九百二十八年から數へて千九百三十六年、昨年で終つて居るではありませんか。もう一年過ぎて居る。さうすれば何處へ行つて居るか。此處に入つた所の者は手が半分出て居る。是は(圖示)此の王宮といふ最後の岩屋は皆花崗岩でありますが、歷史上特筆大書すべき所の事實があります時には皆花崗岩が嵌め込んである。耶蘇キリストが何年に生れるか。世界の終りが何處に來るか、此處に這入るものは何者か。亞細亞、オーストラリヤ、ヨーロツパ、アメリカ、アフリカの五つの世界の國が上に屋根があつて、其の屋根の上に何があるか。垂直に是が聯絡して一番上に何があるか。然るに今日のピラミツドはアラビヤのマホメツト信者が、カイロの脇に横着にも大きなマホメツトの寺を造るために、ピラミツドの上皮の美しい材料(大理石)を剝してさうして寺を拵へた。一番先に崩したのは此の頭、一番大事な所を先づひつくり覆した。其の太陽石は赤い大理石で出來て居つた。ですから今のピラミツドは頭がない。又各方面の上皮も皆剝がれて居るから石段形の石灰

岩の骸骨だけが殘つて居る。そこで建立當時のピラミッドはどうかと云ふと、絶頂には太陽を表徴する赤い大理石があつて、是が東の方を向いて、世界統一・神政復古の偉を現はして居つた。後は全部眞白の大理石で以て張り詰められてあつたと云ふのですから、其の英國の學者の說を信じますれば、一方から見れば三角ですが、飛行機に乘つて空中から見れば下に日章旗が見へるわけであります。アフリカの沙漠の中に日本の日章旗が見へる譯である。所が私が其處へ行つて研究しました結果、英國の學者より一歩を進めて研究した所が、四方面が白い大理石ばかりでなく必ず赤い線があつたことになります。第一カイロの回教寺院には赤い大理石の材料が少なからず使用され居るばかりでなく、此のお寺の眞中に內庭がある。十間に二十間位ありませうか可なり大きい。アラビヤ人は泥足で這入る。どう云ふものか亂暴にもピラミッドの上皮を剝がし、頭を切つた慘酷なアラビヤ人でも此の寺の內庭にピラミッドの偉を殘さむ爲か、日本の軍旗が彼方此方に象眼されて居る。どの位ありましたか、二十もありましたか。眞中に太陽を置いて十六方に放射する赤い大理石の光線を配してある。數はどの位あつたか氣が付きませんでしたが、アラビヤ人は泥足で上るが、私は自分の國の軍旗を踏む譯には行きませんから、軍旗でない白い所だけ歩いて行きました。さうするとありし日のピラミッドの偉は、唯此の邊が白く出來て居つたのみならず、赤い筋が斯う云ふ風に各方面に四本宛あつたのぢやないかと直感されました。それから猶太教の古い文書を開けて見た。段々開けて見ると世界統一・神政復古の時に彼等の待望の王樣、卽ちメシヤと申上げる。其の時の御姿は此のピラミッドの如きものである。さうして東西南北各方面に一視同仁の、各々四本宛の光を放ち給ふと書いてある。東西南北に、耶蘇教は十字架になつて居ります。あれはピラミッドの一面を寫したものであります。所がピラミッドは東西南北各四本、計十六本の光が放たれて居る譯であります。

一三　日章旗地中海に飜る

若し其の當時の斯う云ふ姿を我々が空中から見れば、日本の軍旗がアフリカのナイル河が地中海への落口、卽ちデルタ附近に立派な日章旗が光つて居るわけである。如何に痛快極まる事實ぢやありませんか。實に天祐なる哉、我々が知らない中にアフリカのあの沙漠、沙漠と申しましてもピラミッドのある所は沙漠ではありません。磐石であります。其處に是が立てられてある。其處に日本の軍旗がちやんと据へられて居る。誰が何んと言つても、世界を統一するものは此の旗

の外なし。四十八の星と、十三の線の旗が行きましても、之に合はなければ世界を統一する資格なし。無理に旗を立てやうとするならばあの地獄へ持つて行つて呉れ。ピラミッドの絶頂デモクラシーの徒上るべからずと宣告されるのであるが、其處で猶太人は之をメシヤの御印としてメシヤ章と申上げて居ります。十六條の光を放つた太陽、其處に日本の皇室の御紋章と是とどう云ふ關係があるか。御紋章の由來を云々しますと、是も或る方面から止められて居りまして、我々は自由の言說を吐く譯に行きません。殘念ながら是以上御話は出來ませんが、日本の御紋章と此の猶太人のメシヤの御印として掲げて居る所のものは殆ど同じである。殆ど同じでありますが、能く見て居ると違ふ。何處が違ふかと云ふと、メシヤ章は斯う云ふ十六の線を引きまして、線を中心にして此の間に瓣が出來て居ります。さうすると線が眞中に來る。皇室の御紋章は是と少し違つて瓣が眞中に來て居る。菊の花に因んだと云ふので違つて居る。所が私が段々神社の研究を致して居ります間に、廣島縣の沼名前神社について居る御紋章は左右各異なつて居ります。何故此違ひが出て來たか、さうすると日本にもメシヤと同一紋章があるわけで、私は初めて息をついた。それで段々研究しました。畏多い話ですけれども勅語に付いて居る御紋章は是です。天皇旗の御紋も是です。あとは何も申す必要はありません。日本の天皇がメシヤとして世界に君臨せられる其の時の天皇旗が是でありますれば、猶太人は門戸を開いてどうぞおいで下さいである。御歡迎申上ぐる外ないのであります。而して此の事がシオン運動であります。

一四　猶太人のシオン（日化）運動

このシオン運動、世界を太陽化せんとする此のシオン運動に對し何事ぞ、猶太禍を叫ぶ一團がヨーロッパ人の虛僞宣傳に乘せられ、日本人でありながら日本の國の不利を計つて居る者があるかと思ふと、外國人でありながら涙を流して日本の爲を禮讃する者がある。英國のゴルドン男爵夫人の如きは、私は日本で死ぬことが何よりも嬉しいと言つて京都のホテルで死んだ。神の選民イズレル卽ち猶太人のシオン運動、換言すれば日化運動である。それをシオニズムも、フリーメーソンも、共產主義も同じと見る亂視錯覺の徒が少くない。實際鹿も馬も同じに見へる人は仕方がありませんが、シオンと言へば日化運動、共產主義と言へば、是はロシヤを滅した所の恐るべき經濟運動ですが、其のロシヤ人の經濟運動と、猶太人のシオン運動を同じに見るさへ間違つて居るが、更にフリーメーソン迄も同じに見て居る。實に情なくなります。それ程フリーメーソン

を叩き付けることが彼等の使命であるならば、何故霞ケ關にフリーメーソンの大本山の模倣大建築が出來たのを看過して居るか。アノ大建築は外觀已にフリーメーソンを模倣したとすれば、フリーメーソン式の政黨政治家、即ち國際あるを知つて國家あるを知らざる者が出入する事は當然である。

一五　世界に君臨するもの

私は世界の大勢から割出して、後三年で此のピラミッドの五重塔の中に立つべき旗を星にするか、又は太陽にするかと云ふ大切なる間際に我々に押付けられて居るが、それが人間が決めるのではない。已に神の御手でちやんと決つて居る。上には太陽の石があるから太陽と直系を持つたものでなければ此處に旗を立てるべからず。獨り此處に這入ることの出來るのは天皇旗のみで、從つて日章旗は地球上に翻へるわけになります。而して此處に這入ればどうなるかと云ふと、是は穴藏ですから、空氣が惡くなつて居りまして窒息しますから、此處に全部這入る者が這入つた時に此處に兩方に換氣孔が付いて居る。其處の門がぱつと開かれる。不思議です。四千年前の建物に換氣孔が付いて居る。新しい空氣がずつと這入つて新しい世界が此處に構成される。同時に今迄他の穴藏にあつた換氣孔が全部塞つて了ふ。それが世界の大勢である。後三年で斯うなる。即ち今年は西暦一千九百三十七年でありますから我々は一年以上足が出て居りますから、何處に降さうか中は眞暗ですよ。足の降し場所がない。此の世界の有樣が何處へ行かうが、後へ戻れないからどうしても行かざるを得ないが、一體何處に行くのか、此處は少し低くなつて床がある。此の床に足が着けば宜いが、高さ四吋、即ち四年掛る事になります。すると此の四年の後實に千九百四十年、オリンピック大會が日本に開かれる。萬國の者が日本に向つてスポーツ熱を上げて狙つて居る。スポーツの如き低級なものはどうでも構はぬが、或は宗教大會、教育大會、政治大會、學術大會、經濟大會等凡ゆるものが日本に來て、日本を中心に何か日本に行かないと幅が狹いやうな世界の移り變りが出て來た。同時に日本では二千六百年の大祝祭が執行され、萬國博覽會も開催される。此の空前未曾有、千載一遇の此の好機會に、出來損ひ流行遲れのデモクラシー文化を誇るつもりか、將た又神祕の日本を闡明してテオクラシー文明を讃美せしむるかが今日の爲政家の唯一の問題ではあるまいか。而も其の頃には外國人は最早國境なんと云ふ狹い考のものでなく、宗教上の神智靈覺で來て居るのであるから更に面白い。元來世界の三大宗教である耶蘇

教、マホメツト教、猶太教は凡て此のピラミツドから發祥して居ります。而して全體が猶太教ですが、ピラミツドの上皮の美しい所を剝したのがマホメツト教、此の中にある神の設計を宗教にしたのが耶蘇教である。此の建造物を造つたセム族が世界統一・神政復古の王が東からおいでになると云ふので、ちやんと東の方に向けて此處に不思議なるものが頑張つて居ります。あのスフインクス、是は眞東を向いて居る。何んの爲に待つて居るか、世界の爲のメシヤの現れ給ふを待つて居る。四千年も前から一遍も目ばたきもせずに晝夜の區別なく番をして居ります。此の位忠實に天地の公道を擁護して居る者はありますまい。スフインクス、ピラミツドが斯くの如く天地の公道に則して居るではありませんか。而して之を腸に刻み込んで居る神の選民が是が爲に生きて居るのではありませんか。それを何の必要あつて、猶太人は世界の惡魔だと言つて猶太人を叩き付ける必要がありますか。それは滅ぼさるべきヨーロツパ人のすることです。猶太人がどんなに騒ぎましても日本は潰れません。潰れないと云ふ自信の上に立つた日本人は、猶太人の運動を少しも恐るゝ必要はありません。況んやシオンは日本化運動であります。

一六　結　論（世界統一・神政復古）

其處で話を飛ばして最後の纏りを申上げます。世界が段々ハルマゲドンの舞臺を展開しつあるる時に、全世界のハルマゲドンの前兆として、例へば夜將に明けむとして鷄先づ鳴き、一番鷄が鳴きませう。一番鷄が鳴いたもう二時だ。次いで二番鷄が鳴いた。早い人は起きます。三番鷄が鳴いた。大抵の人は起きます。然るに鷄が鳴いても起きない人があります。太陽が出て居つても起きない。雨戸を閉め切つて寢て居る人がある。其の人間を同じに神樣が助ひ上げることは六ケしい。滅ぶべきものは滅ぶ。其處でハルマゲドン已に酣の今日、一番鷄が鳴いて起きる仕度をしやうぢやないかと言つて準備する人は幸福です。其の鷄の聲が何處に聞へるかと云ふと、全世界に散在して居つた猶太人が本國に復歸したと云ふ事です。之がハルマゲドンの前兆でしたが、國を失つて二千五百年間、自分の國の言葉ヘブライ語を全部忘れた猶太人が、どうして本國に戻ると云ふ國民性を持つて居りますか。所が猶太人だけは戻ると信じて居つた。其處で餘り不思議なことを言ふから、日本の丁度花咲爺と同じやうに枯木に花が咲く。是が日本の國民性、猶太人は同じやうに枯木に花が咲くとは言はないが、白骨が歌を歌つて踊るといふて居る。元の人間に生れ代つて神樣を讃美する。出來やう筈はないが猶太人は出來ると云ふ。それでアラビヤ人マホメツ

ト教徒は猶太人が何を言ふか、お前等が本國に歸つたらナイル河の水がアラビヤの沙漠に流れるとまで嘲つた。ところが千九百十七年を期して、猶太人は本國に戻りました。嘘のやうな話が事實二十年前にあつた。ナイル河の水がアラビヤの沙漠に注ぐ譯がありません。山にトンネルを掘れば流れぬこともないが、紅海と云ふ海があります。狹い所で十哩、廣い所は七十哩、其處をどうして河の水が流れるか。然るに猶太人が本國に戻つた時、アラビヤの沙漠にナイル河の水がどんどん流れて來た。猶太人の義勇軍が此處を攻擊する時に、英國では二十三吋の鐵管でナイル河の水をパレスタインに持つて來た。不思議ではありませんか。遂に猶太人は勝誇つて本國に戻つたが、彼等の聖書に、猶太人自からの力に依つて出來るのぢやない。之を助ける者は東から來ると書いてある。其の國は古く且强く未だ彼等は侮りを受けしことなく、其の國は太陽の輝く所とある。私は大正四年に教育總監の一戸大將に、近き將來に日本の軍隊が地中海方面に出動すると信じますから其の時には是非從軍さして下い、と豫めお願ひして置いた。戰を見に行くのぢやありません。此處にハルマゲドンの戰爭が起れば、日本の軍隊が此處に日章旗を立てなければならぬ。私は日本天皇の世界君臨をお迎へする準備の爲にお願ひした。其の時にお願ひしたことが嘘

になりましか、いや其の通りになつた。英國は今猶太の義勇聯隊がパレスタインを攻略しやうとして居るが、手も足も出ない。殘念ながら貴國から十箇師團出して呉れないかと言つて申込んで來た。時の大使館附木原大佐が「十ケ師團出すことは六ケしくはありませんが、運送船がありませんから二箇師團にして呉れ」、「いや二箇師團ではパレスタインの攻擊は出來ない」、「我が二箇師團なら十分だ」と押問答の末、名古屋と小倉の師團が先づ動員が下る筈に參謀本部では計畫が出來た。同時に海軍の軍令部にも來た。然るに陸軍の動員が正に發令さるゝに當り、世界征略運動をやつて居る二重隱謀の片割が今日本に出られては、世界の中心が日章旗の下になる。今の中に邪魔しなければならぬと云ふので、世界平和の爲に我が國から二百萬出しませうと申出でた。二百萬あれば藁人形でも少しは役に立つ。それではお願する。日本の參謀本部に電報が飛んで貴國の軍隊出動無用と來た。其の時に若し日本の二箇師團が行つて居りましたら、今は此處パレスタインに日章旗が翻つて世界の中心に面白い運動が出來て居つた筈であります。併し陸軍は出損なつたが、軍艦旗はずつと印度洋から地中海に這入つて、地中海の絕對安全を保障した。今日まで三年半聯合艦隊が警備して居りましたが、味方の損害が八百艘であつた。扨て米國の二百萬の

軍隊が英佛戰場に行く事になつたために、英國のアレンビー將軍の二十萬の軍隊がパレスタイン攻擊を命ぜられたところ、出發直前ストライキを起した。それの原因は日給二十圓では安いから三十圓にして呉れといふやうなものではなかつた。副官がアレンビー將軍の所へ參り恐しいストライキが起りましたと報告した。それは將校全部のゼネストで、其のゼネストの條件は三月目に一遍宛妻君の顏を見せて貰ひたいといふのである。是が英國の軍隊ですよ。日本の軍隊にはそんな者は一人も居りません。所がアレンビー將軍是は大變だ自分にも覺へがある六ケしい問題だ。地中海は危險で迎も妻君を呼ぶ所の話でない、どうすることも出來ない。其の時に日本の驅逐艦十二隻が此處に這入つて行つた。それで日本の海軍に獨逸潛航艇退治をやらせやう。日本の海軍は馬鹿正直だから本氣になつてやるかも知れぬ。日本の海軍が全滅しても我々に何等損害はなし、若し敵の潛水艦を沈めれば亦我等の幸福であると言ふので賴んで來た。それで日本はそんな術策が先方にあるとも知らず、天皇陛下の御命令なりとして地中海を警備した。一年八ケ月に亘つて警備した。其の間に味方の損害がどの位かと云ふと僅に二隻である。而も敵の潛航艇を全部擊滅したのである。

其處で猶太人のシオン運動は、我々は英國の軍隊が來た爲に本國に戻つたのぢやない。東の國の太陽の軍艦に依つて萬邦の猶太人が本國に戻つたのであるとて、其のお禮の印にシオン運動の家庭に此の圖(圖示)が掲げてある。圖はヘルツル博士が千九百七年にパレスタインに行つてダビテ城を見て、何時の世にか自分の同胞が全世界から戻ることが出來るか、シオン運動は世界から反對を受けて居る。彼が涙を流して神に訴へて居る所の此の繪姿であります。ふと目を上げると東橄欖山の山の上に、日本の海軍旗が翻つて居つた。東の方に太陽が出て來なければ我々は本國に歸れぬと言つた言葉に依つ

て、早く東に太陽が出て呉れゝば宜いと言つて感慨無量で泣いて居つた。その理想を圖案したものであります。私も此のパレスタインの此のホテルで同じ所でダビテの城を見て泣いて參りました。何時日本の天皇が世界に君臨される時があらう。それにも拘はらず猶太禍を叫ぶとは何事でありますか。而も猶太禍を叫ぶ人は何故か星條旗の事を惡く言はないのが奇怪である。我々はもう少し世界の大勢に乘つて、もう少し深い正しい認識を有たなければならぬと信じて斯く講演いたしました。（拍手）

昭和十二年二月二十日 印刷
昭和十二年二月廿五日 發行

【定價拾五錢】

著者 酒井勝軍
發行者 東京市世田谷區代田二ノ一〇五一 古賀治朗
印刷者 東京市本所區向島請地町一六六 森下美之

發行所 東京市世田谷區代田二ノ一〇五一
神祕之日本社
振替東京一二二三九四番

337
1255

世界的行詰の今日、萬人必讀の書はこれ！

酒井勝軍先生快著

猶太人の世界征略運動

（送料トモ）特價金二圓

猶太の七不思議

（送料トモ）特價金七十錢

今後の世界はどうなる？　猶太問題を知らずしてこの世界的問題の解決は不可能である。ヨーロッパ人は猶太民族を排斥する。然るに我が國人はその如何なる理由によるかを究明せずして、徒らに之に追隨して直ちに「猶太人排斥すべし」と考へ、所謂「猶太嗾」の宣傳にこれ努める人がある。誤まれるも亦甚しきものである。玆に猶太問題の根本義を說いて、日本人の進路を明示する酒井先生の蘊蓄に聽け！

天子政治を高唱せよ

（送料トモ）特價金二十錢

今日の日本政治は脫線してゐる。變態である。政黨は祭政一本の皇政眞姿を忘れ、日本の政治を事實上民衆政治に化し去らんとしてゐる。軍が斷然政黨排擊に立つたのも國體を擁護して日本政治を本道に復歸せんが爲に外ならないと信ずる。著者は早くも普選案の我が議會を通過せんとする時、既に政黨政治の非を覺り、今日の國難あるを憂へ、孤軍奮鬪之に反對し、天子政治を絶叫して今日に及んだ。軍と政黨との對立確執に國民皆その歸趨に迷ふ時、現下必讀の書はこれ！

東京市世田谷區代田二ノ一〇一五

國教宣明團

振替東京七四四六九番

終

國産

ドーコレクチイテ

吾國唯一の純國産優秀レコードとして一大飛躍をなしつゝある當社は專屬作曲家として流行歌界の第一人者古賀政男以下數多の藝術家を擁し本邦圓盤界の覇者たらんと努力しつゝあり！

帝國蓄音器株式会社

本社 奈良　支店 東京・大阪・神戸・福岡・京城・小樽